

2017年4月1日

当院でダブルバルーン小腸内視鏡を受けられた患者さんへ

当院で行っている臨床研究についてのお知らせとお願いです

課題名：転移性小腸腫瘍に対するダブルバルーン内視鏡の役割と治療

◆研究の目的と概要◆

当院では、転移性小腸腫瘍に対するダブルバルーン小腸内視鏡の役割や診断後の治療・結果を明らかにする目的で、転移性小腸腫瘍を認めた患者さんを対象に、臨床研究を実施しています。

この研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用します。

◆対象となる患者さん◆

2005年6月から、2017年3月までの間に、転移性小腸腫瘍であると診断された方

◆研究に使用されるカルテ情報◆

ダブルバルーン内視鏡時の研究対象患者背景（性別、年齢、原発巣、現病歴）、ダブルバルーン内視鏡所見・偶発症、診断後の治療と生存期間・輸血の有無

- * 患者さん個人が特定されるような情報は一切公表されません
- * この研究は、倉敷中央病院 医の倫理委員会の承認を得て行っています。
- * この研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

消化器内科 研究責任者 西村直之

TEL：086-422-0210（代表）、FAX：086-421-3424（代表）

E-mail：kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）